



栄徳 勝光 先生

高知大学医学部講師
高2、中3、小6男の子3人の父

エコチル調査で“バトンをつなぐ” ～疫学調査の必要性～

人生100年時代と言われる現在、健康は以前にも増してより大切なものとなっているように思います。自分自身だけでなく、家族、特に次の時代を生きる子どもたちにとって、健康についてのリテラシー^{※1}を高めることの価値は、今までにないほど高まったと言って過言はないでしょう。

スペイン風邪以来100年ぶりの世界的な感染症の大流行となった新型コロナウイルス感染症を経験してポストコロナの時代となりましたが、改めて振り返ってみると今回活躍したワクチンや3密の回避、手洗いうがいなどの対策は、いずれも古くからある感染症予防策であることに気づきます。つまり、自分たちの健康を守る知恵はすでに多く出揃っているということです。

エコチル調査に代表される「疫学調査」は、19世紀に感染症予防に大きく貢献するいくつの成果を上げていますが、ここではその一つ、「手洗い」による感染症予防を紹介したいと思います。

現在、家庭や学校で当たり前のように教えられる「手洗い」ですが、その有効性を明らかにしたのは、19世紀のハンガリーの医師、ゼンメルワイスです。彼は20代後半の頃、

ウイーン総合病院に産科医として勤務していましたが、その際に自身が配属された第1産科病棟で、第2産科病棟よりも2倍以上妊婦さんの亡くなる確率が高いことに注目します。第1病棟では医師や医学生が産褥熱^{※2}で亡くなった妊婦さんの解剖を行ってから妊婦さんの診察を行っていたことから、産褥熱の原因が妊婦さんに移るのではないかと予想しました。そこで、診察前に手洗いを行うように対策したところ、予想通り妊婦さんの亡くなる確率が大きく改善されたのです。

エコチル調査は多くの論文と社会に還元している成果が評価され、調査期間の延長が決定しました。10万人規模で妊娠中からお子さんへの化学物質の影響について調査している調査は世界でも他になく、ご両親とお子さんの血液等のサンプルを保有している点で大きな期待と注目を集めています。エコチル調査から、後の世代の健康リテラシーを高める知恵が数多く出てくるように、これからもご協力よろしくお願いします。

疫学調査とは、地域や集団を調査し、病気の原因と考えられる要因と病気の発生の関連性について、統計的に調査することです。

※1 「健康リテラシー」とは、健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のこと。

※2 「産褥熱」とは、分娩によってできた産道や子宮内の傷から細菌が入り感染して発熱が生じた状態のこと。

